

長岡市立科学博物館 令和7年度 児童・生徒「昆虫標本展」

審査講評

審査長 越佐昆虫同好会会員 中野 潔

越佐昆虫同好会会員 榎並 晃

越佐昆虫同好会会員 中林博之

越佐昆虫同好会会員 須藤弘之

1 出品状況など

今年の出品数は小学校 31 点、中学校 5 点、高校 1 点の合計 37 点となり、昨年と同数でした。出品地域は主に中越地方に集中していましたが、上越市、新潟市、新発田市からの出品もあり、今後はさらに県内全体からの出品があることを願います。作品には、「〇〇市周辺の標本」など地域を絞ったもの、「チョウの標本」など昆虫グループを限定したもの、季節や環境を限定したものが多く見られました。特に今年は、トンボとコウチュウの出品が多く、レベルの高い作品も目立ちました。新潟県はトンボの種類が多い事が知られていますが、近年生息地が減少し、分布の限られた種もあり、これらの現状を把握するためにも貴重なデータとなります。ぜひ発展させていただきたいと期待します。反面、今年は例年多いチョウやバッタ、セミの出品が少なく、さらにカメムシ、ガ、ハチなどは出品が非常に少ない結果でした。地域の昆虫をテーマにしたものでも、コウチュウやチョウの大型種がほとんどでその他のグループは見られないことが大半です。何年か採集と標本作りを続けて慣れてきたら、徐々に対象の昆虫グループ（目）を絞って小型種にも目を向け発展させていくことを期待します。近年外来種や温暖化の影響とみられる暖地系の種が分布を拡大しています。今年の出品では、近年県内に侵入した特定外来種に指定されているアカボシゴマダラ（タテハチョウ科）の標本が各地から出品されました。また、今年は、昨年まで見られた、数年間かけて集めた膨大な標本やデータ記録を集大成した飛び抜けた秀逸な出品は少ない印象ですが、一定レベルの揃った出品が多く、順位をつけるのに苦慮しました。これは地域の指導者や親の地道な教育の成果と思います。タイトルの設定は作品評価において重要なポイントで、独創性があるか、標本箱に収められている標本と関連しているか、レポートにその内容の説明がされているかが評価の対象となります。独創性については、他の小学生が採集しない昆虫を対象としたものや、異なる環境での昆虫相の比較、特定の種の生態の調査など、よりテーマを深掘りした内容は高評価が付きやすくなります。また、今回レポート添付は義務ではないものの、7割近くの作品で見られ、より良い作品作成への努力が見られました。特に中学生や小学生高学年の作品にはより高度なレポートが作成されている傾向がありました。一般的な研究レポートの体裁にのっとった、目的・背景、材料・方法、結果、考察の記述がある作品も多くあり、これも評価の対象となります。全体的に作品のレベルが上がっているように見えました。金・銀賞をもらった他の出品者の作品を観

察することで技術向上に役立つはずですが、ぜひ今後も出品し続け、より良い作品を作成する方法も学んでいただければと思います。

2 標本づくり、標本管理について

昆虫の標本はきちんとしたデータラベルの添付が必須です。データラベルには種名や標本番号は書くべきではありません。種名は別のラベルに書くことが必要です。標本にカビが生えていたり、ハネが下がった標本が見られ見したが、これは乾燥期間が充分でなかったか、保管状態が悪かったことによると思われます。さらに一部で標本を食害する虫の被害を受けたものが見られました。貴重な標本です。展翅、展足期間は通常1ヶ月程度以上を目安とし、標本箱保管には多湿環境を避けながら防虫剤も利用することが必要です。標本が美しく見えるためのポイントは、昆虫の目ごとに違いますが、標本が乗ってる本や図鑑、インターネットを参考にしながら、ハネの角度や脚の形などを真似してみてください。

3 印象に残った作品など

今回金賞となった作品3点を紹介します。3点はいずれも標本作成技術が高く、多数の標本が並べられており、熱心な活動の様子が伝わって来ました。今後の発展に期待したいと思います。1つ目は「柏崎周辺のトンボ人チョウ・シーズン5」です。柏崎市全般に調査対象とし、トンボとチョウに絞った活動の数年に渡る活動の集大成で、レポートもきれいにまとめられています。2つ目は「魚沼のトンボ4年目～時刻における止水域のトンボの出方～」です。この作品は4年間のトンボの活動を詳細に記録しまとめたもので、レポートも写真や絵を組み合わせで記されています。昆虫の生態は道な部分も多く貴重な観察知見も含まれています。3つ目は「昼行性と夜行性のコウチュウの違い」でした。コウチュウ目全般を対象として、いろいろな採集法により微小種を含め、非常に多くの種類を採集、同定、出品しています。採集方法や時間帯により確認下種類を比較考察しています。

4 注目すべき記録

「ぼくのすきなむし」で出品されたカトリヤンマは、新潟県内では30年以上前に記録されて以来記録が途切れていた種で絶滅が危惧されていたもので、近年村上市で確認されたものに続く貴重な記録です。昆虫は誰もが新しい・珍しい発見をする可能性のある生物ですので、今後も注意深く・回数多く観察し、地域の自然をみんなで明らかにしたいものです。

5 科学博物館 展示会担当より

小学校卒業を区切りとして作品作りから離れてしまう人が多いですが、その中で中学生・高校生による出品も見られることは嬉しく思っています。本来、採集も標本作りも、大人になっても一生楽しいものです。小学生よりも中学生・高校生になってからのほうができることが増えるので、進学してもぜひまたここに来てください。みなさんの深い興味に、学芸員・審査員とどこまでも付き合いたいと思っています。